

口腔機能訓練器具（ラビリントレーナー）を用いた効果について

Effect of Oral Function Training Devise (Labilin-trainer)

飯塚能成¹⁾, 本暮千恵了²⁾, 板橋真奈美²⁾

Yoshinari Iizuka¹⁾, Thieko Kogure²⁾

Manami Itabashi²⁾

IPSG¹⁾

吉沢病院看護部²⁾

Interdisciplinary Practical Study Group¹⁾

Nursing Section of Yosizawa-Hospital²⁾

目的：本研究では、口腔機能調器具（ラビリントレーナー）のトレーニング効果を検証するために高齢者および要介護高齢者の舌圧と口輪筋の計測を行った。

方法：年齢を 65～69 歳、70～74 歳、75 歳以上、介護度 3 以下、介護 4、5 のグループに分けてトレーニングを行っていない対象者に対し舌筋計を用いて舌圧と口輪筋を測定した結果と舌圧と口輪筋の筋力の低い対象者に対しラビリントレーナーによる口腔機能調策を行い、舌圧と口輪筋を計測した結果を比較検討した。

結果：高齢者の舌圧と口輪筋は年齢とともに低下し、舌圧と口輪筋の低かった対象者はむせる、口が乾く、声がかすれる、飲み込みづらい、唾液があまり出ないなどの症状があることがわかった。要介護高齢者では、筋力は介護度が増すごとに低下し、口呼吸、口腔乾燥、嚥下障害、発音障害、舌苔、熱発、歯肉炎などの症状があることがわかった。介護度 4、5 のグループはすべての対象者に多くの重篤な症状が認められた。そこで、自覚症状のある高齢者に対し、ラビリントレーナーによる口腔機能調練を行った結果、ほとんどの対象者は筋力が上がり症状も改善された。要介護高齢者においても著しい筋力の向上が見られ、誤嚥しなくなった、流涎しなくなった、声を発することが多くなった、口調がはっきりした、むせが少なくなった、食べる量が増えた、応答がはっきりしてきた、口を閉じるようになった、口腔内が清潔になり舌苔が少なくなった、記憶力がよくなった、義歯を作りたいと言い出した、経管栄養だったが口腔摂取するようになった、排泄を教えるようになった、など改善が見られた。

考察：吸啜反射を応用した口腔機能訓練器具ラビリントレーナーを使用することにより舌圧、口輪筋の筋力アップをはじめ、摂食嚥下機能が改善され、消化吸収、排泄に至る一連の流れがよくなることが解明した。また口もしっかり閉じるようになり、呼吸も鼻呼吸に改善された。この効果はラビリントレーナーが筋力トレーニングの器具というだけでなく、吸啜反射を起こさせることにより脳を刺激し、嚥下反射を起こさせ、消化吸収、排泄に至るまでの一連の動作の指令をしている可能性が示唆された。特に片麻痺のある対象者が発音、嚥下機能や流涎の著しい改善が見られたのは驚嘆に値する。

現在、著者らはラビリントレーナーを用いて高齢者の介護予防のための機能訓練や要介護高齢者に対して歯科治療の前準備として口腔機能訓練を行っている。機能調薬により摂食嚥下機能を回復させ、食事ができるようにすることはもちろん、歯科治療において流水の誤嚥を予防できるため治療が安全に行える、また義歯の吸着安定もよくなり治療後の経過も良好である。最後に多くの要介護施設や在宅においてラビリントレーナーを用いた訓練を実施することにより多くの要介護高齢者の機能改善が認められ、明るい高齢社会の到来が実現することを期待する。